

機関番号：31302

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007～2010

課題番号：19202018

研究課題名（和文） アジアにおける新国際秩序の形成と国際援助計画の総合的研究

研究課題名（英文） The Integrative Study on the Relation of the Formation of the New International Order in Asia and the International- Aids Plan

研究代表者

渡辺 昭一 (WATANABE SHOICHI)

東北学院大学・文学部・教授

研究者番号：70182920

研究成果の概要（和文）：

冷戦体制の確立期におけるアジア国際秩序の再編問題について、国際援助計画コロンボ・プランの実施過程との関連から検討した。第一に、コロンボ・プランは、イギリスにとってコモンウェルス体制として影響力を残存させるために、インドおよびオーストラリア、ニュージーランドにとってアジア安全保障体制の強化のために、策定されたこと、第二に、その計画の主要な財源となったスターリング・バランスの枯渇により、イギリスの支援が資本援助から技術援助へとシフトしたこと、それによって被援助国のアジアは、積極的な資本援助を求めて支援の多様化を図っていったこと、第三に、イギリスのコモンウェルスの存続、アメリカのヘゲモニー支配が強化される中で、その多様化が自立したアジア地域連合という新体制の成立につながったことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

(1) Assuming that it is necessary to think about the formation of the new international order in Asia in the 1950s in relation to the development of the Cold War System, we have come up with significant findings concerning the relation between its formation and the international economic aid Plan, that is, the Colombo Plan for Asia such as Marshall Plan for Europe.

(2) We found that the Colombo Plan was to preserve the influence of Great Britain in Asia for Great Britain and to secure the network of military powers against the communism.

(3) We also found that the necessary resources, mainly the sterling balances were falling down in the mid-1950s, and the Asian countries have shifted from the bilateral policy to the multilateral to collect the fund.

(4) Through case studies, we have discovered that the Colombo Plan had very important role in forming the self-governing regional association of the Asia countries during the fader way of British influence and the raising of United States' hegemony in the 1960s.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	13,900,000	4,170,000	18,070,000
2008年度	10,900,000	3,270,000	14,170,000
2009年度	8,100,000	2,430,000	10,530,000
2010年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
年度			
総計	36,700,000	11,010,000	47,710,000

研究分野：イギリス帝国史、国際関係史

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：コロンボ・プラン、脱植民地化、冷戦、ヘゲモニー、国連、アジア国際秩序、アジア地域連合

1. 研究開始当初の背景

20世紀を歴史研究の対象としてみる機運が高まり冷戦構造史の研究が本格化した。その主な関心はヨーロッパにおける連合や民族の統合・分裂など、ヨーロッパの国際秩序の再編問題にあった。しかし、同じく冷戦体制下においてアジア諸国は政治的独立を達成した後、目覚ましい経済発展を遂げ、「アジア・ミラクル」として、世界経済において重要な役割と位置を占めるようになってきた。こうしたアジアの政治的・経済的自立化が米ソの冷戦体制が確立してくる中で脱植民地化（帝国の終焉）のプロセスと密接な関係があった。しかしこれまで、脱植民地化と冷戦構造、そしてアジアの経済発展の関連性を問われることがあまりなかったため、三者がどのような連関しているのかを検討する必要があると考え共同研究に取り組むことにした。

2. 研究の目的

(1) 冷戦体制におけるヨーロッパ国際秩序の再編問題を視野に入れつつ、戦後アジア国際秩序の再編に目を向け、アジアにおける帝国の終焉（脱植民地化）とその影響力の温存とアメリカによるヘゲモニー支配の進行、アジアの地域連合の形成という新体制への移行過程の特質を明らかにすることをめざした。
(2) その際、アジアの国際的経済援助計画となったコロンボ・プランに着目して、その成立と展開を追いながら、計画をめぐるイギリス、アメリカ、国連、そして受入国の動向を検討した。スターリング・バランスの処理、国連・世界銀行及びアメリカの経済支援に着目して、そのプランを策定するに至った背景、アジア諸国における開発プランの具体的内容、そしてプランの執行とその実際の効果を中心に総合的に検討することをめざした。
(3) 国際的な経済援助プランが国民国家としてのアジア諸国の政治的・経済的自立化をどのように導き、そしてどのようにして新たな国際体制に編入したのか、その相互関連性に注目した。

3. 研究の方法

研究の目的と枠組みを共有したうえで、研究方法は、脱植民地化のプロセス、ヘゲモニーの移転、アジアの自立化、国連の支援体制（ECAFEの動向）との関連を重視しながら、各分担者がコロンボ・プランの成立、展開、そしてその変容過程の解明にあたった。なお、その際、課題がグローバルな視点を必要としたため、イギリス、アメリカ、ソ連、インド、

台湾の研究者との国際的連携にも力を入れた。

4. 研究成果

(1) コロンボ・プランの成立背景

第二次世界大戦後の共産主義拡大の脅威によって、ヨーロッパに対するマーシャル・プランが実施されていく一方で、アジアにおいても共産主義の脅威が拡大し、インドの独立達成後にコモンウェルスへの編入が確定したことを受けて、1950年コモンウェルス首相会議においてイギリスコモンウェルス体制の強化の一環として東南アジアの再編を促すための支援計画がまとまったことを明らかにした。コモンウェルス再編とそこにおける自国のプレゼンスを達成するために、東南アジア支援は、国際秩序の維持の観点から、イギリスのみならずインド、オーストラリア、ニュージーランドにとって絶好の機会となったことを明らかにした。

(2) 1950年代のコロンボ・プランと英米の支援体制

脱植民地化の最大の問題は、インドのスターリング・バランスの処理問題であり、イギリスは、自らの経済支援プログラムに組み入れたが、その残高が消失するにつれてイギリスの支援方法を資金的援助から技術的支援に変更せざるをえなかったこと、他方、アメリカの支援は、東南アジアをイギリスの支配領域として認識していたことから、コロンボ・プランにおいては、当初積極的な支援を行わず、このプラン以外の二国間交渉による支援をしながら実質的影響力を拡大していたことが判明した。また、国連の世界銀行による支援は、コロンボ・プランというよりも、単独の計画による資本供給に力点がかれ、同じく国連のエカフェもアジア諸国の要請に関して、相互の連携を図りつつも、独自の情報収集に力をいれていたことが明らかにした。

(3) コロンボ・プランの実施状況

被援助国の中で最大の支援を受けたインドへの資本並びに技術支援をみると、コロンボ・プランは、インド側の要求に従って第一次五か年計画及び第二次五か年計画に組み入れる形で実施された。しかし、年々要求額が大きくなり、必ずしも十分に満たせず、戦略的に資金援助国の多様化をうながしていたことが分かった。この多様化に応じて、1960年コロンボ・プラン実施諮問会議が東京で開催された後に、東南アジア支援国としての日本の役割が脚光を浴びたこと、還元すると、日本のコロンボ・プランへの参加が東南

アジア国際秩序再編において重要な役割を果たしたことを明らかにした。

(4) 国際援助計画と国際秩序再編の関連

冷戦体制下におけるアジアの国際秩序を非軍事的に再編したという点において、コロンボ・プランが非常に重要な役割を果たしたことを論証した。コロンボ・プランはイギリスの帝国解体後のアジア諸国に対する支援プログラムとしてスタートしたが、開発支援に必要な資金難がイギリスの影響力の温存を困難にして、アメリカに依存する傾向を強めたが、しかし、アジア諸国は、両陣営の政治体制へと傾斜することなく、第三の勢力としての立場を保ちつつ、自らの経済的自立を図るべく巧みにその支援交渉を行っていたことを解明した。

(5) 今後の展望

こうした成果を得たことを確認した上で新たな課題も見出した。コロンボ・プランは1970-80年代においても発展変容を遂げていくことから、当該時期における計画の実施プロセス、特に東南アジア各国の五か年計画との関連を検討することが重要であると思われる。また、イギリスが EC 加盟を目指し、ベトナム戦争によってアメリカの影響力が低下していく国際情勢との関連において、国際援助の果たした役割を新たな課題として追及すべきことを確認した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 26 件)

- ① Kan Hideki, "The Rise of China and US-Japan and US-ROK Alliances Developments Compared," 『アジア太平洋論叢』第 19 号、2010 年 10 月、3-50 頁、査読有。
- ② 菅英輝「『核密約』と日米安保体制」『年報日本現代史』第 15 号、2010 年 6 月、1-38 頁、査読有。
- ③ Kibata Yoichi, "Two Island Empires Compared: Britain and Japan", *The East Asian Journal of British History*, Vol. 1, 2011. 3, pp. 72-81, 査読無。
- ④ 木畑洋一「脱植民地化の諸相」『歴史と地理』639 号、2010 年 11 月、pp. 1-15、査読無。
- ⑤ 波多野澄雄「日本現代史研究の現状と課題」外務省『外交史料館報』22 号、2010 年 3 月、76-88 頁、査読無。
- ⑥ 山口育人、「イギリス・アトリー労働党政権の戦後世界構想をめぐって」、『紀要(帝京大学短期大学)』、第 31 号、2011 年 2 月、83-108 頁、査読無。
- ⑦ 吉田修「インドの対中関係と国境問題」『境界研究』創刊号、2010 年 10 月、57-70 頁、査読無。
- ⑧ 横井勝彦「アジア航空機産業における国際

技術移転史の研究」『明治大学社会科学研究所紀要』第 49 巻第 1 号、2010 年、45-65 頁、査読有。

- ⑨ 渡辺昭一「戦後アジア国際秩序の再編とコロンボ・プランの指針」『歴史と文化』(東北学院大学論集)第 46 号、2010 年 3 月、109-131 頁、査読無。
- ⑩ 渡辺昭一「イギリス内閣府調査委員会とコロンボ・プランの作成過程」『ヨーロッパ文化史研究』第 11 号、2010 年 3 月、295-319 頁、査読有。
- ⑪ 渡辺昭一、秋田 茂合撰・呉李晏訳、「1950-60 年亞州國際秩序」國史館館訊、第二期、2009 年、194-207 頁、査読有。
- ⑫ 波多野澄雄「『地域主義』をめぐる日本外交とアジア」『國際問題』第 578 号、2009 年 1-2 月合併号、10-21 頁、査読有。
- ⑬ 菅英輝「アメリカのヘゲモニーとアジア秩序の再編、1945-54 年」『北九州市立大学外国語学部紀要』2007 年 9 月、85-126 頁、査読有。
- ⑭ 菅英輝「冷戦後の米国のヘゲモニー戦略と世界秩序—クリントン・ブッシュ両政権を中心に」『國際政治』150 号、2007 年 11 月、18-34 頁、査読有。
- ⑮ 河西晃祐「1910-30 年代の「帝国秩序」変容と「大東亜共栄圏」構想」『ヨーロッパ文化史研究』第 8 号、2007 年 3 月、233-267 頁、査読有。
- ⑯ 山口育人、「コロンボ・プランの成立とアトリー労働党政権のスターリング政策」、『史林』、第 90 巻 6 号、2007 年 11 月、1-34 頁、査読有。
- ⑰ 秋田茂「研究動向：グローバル・ヒストリー—研究と南アジア」『南アジア研究』19, 2007 年 12 月、132-137 頁、査読有。

[学会発表] (計 40 件)

- ① Yoichi Kibata, "Two Island Empires Compared: Britain and Japan" The 4th Japanese-Korean Conference of British History, . 2010 年 11 月 14 日、熊本大学。
- ② 日本国際政治学会第 50 回大会 部会 13 「1950-60 年年代アジア国際秩序と国際援助計画：コロンボ・プランを中心に」、札幌国際センター、2010 年 10 月
秋田茂「趣旨説明」「コロンボ・プランの変容とスターリング圏」；吉田修「開発援助の始まり：インド、コロンボ・プラン、世界銀行」；山口育人「戦後アジア政治・経済秩序の展開と極東アジア経済委員会 (ECAFE)、1947-1965 年」；波多野澄雄「コロンボ・プランと日本」
- ③ 渡辺昭一「アトリー労働党政権のコモンウェルス政策」イギリス史研究会、青山学院大学、2010 年 10 月 17 日。
- ④ Akita Shigeru, "The Making of a

Genuinely Global Economic Historiography?" , Global History Session, and "Marxist Historiography in Postwar Japan" , Session P-9: The Ebb and Flow of Marxist Historiography: A global Perspective, The 21st Congress of International Committee of Historical Sciences, University of Amsterdam, The Netherlands, Aug. 2010.

- ⑤木畑洋一、「イギリス帝国と日本帝国—比較と関係の視座」日本植民地研究会全国研究会、2010年7月4日、立教大学（東京）。
- ⑥パネルディスカッション「コロンボ・プランとアジア国際秩序の再編」社会経済史学会第79回全国大会、関西学院大学、2010年6月20日
渡辺昭一「趣旨説明」 「コロンボ・プランの成立過程」；菅英輝「米国の冷戦政策とコロンボ・プラン—1950年代アジアにおける地域協力の模索」；横井勝彦「コロンボ・プランにおける技術援助の諸側面—英印間の技術移転の実態—」；木畑洋一「日本のコロンボ・プラン加入とイギリス、オーストラリア」；都丸潤子「コメント」
- ⑦木畑洋一「「帝国の総力戦」としての第一次世界大戦」メトロポリタン史学会第6回大会、2010年4月17日、東京首都大学。
- ⑧秋田茂「1930-50年代アジア国際経済秩序とイギリス帝国・スターリング圏」 「東南亜と東北亜：歴史と多元文化的再省思」学術研討会：東北アジア地域研究、中国・清華大学・歴史系、Feb. 2010、北京・九貨山荘。
- ⑨Indo-Japanese Workshop on Cold War, Decolonization and the Colombo Plan: The Transformation of the International Order of Asia in the 1950s and 1960s' Jawaharlal Nehru Institute of Advanced Study, Jawaharlal Nehru University, New Delhi, India, Dec. 28 2009. Watanabe Shoichi, "the Formation of the Colombo Plan" ; Kibata Yoichi, "Changing International Order in Asia in the 1950" ; Akita Shigeru, "The Transformation of the Colombo Plan and the Sterling Area in the late 1950s and the early 1960s" ; Yokoi Katsuhiko, "The Colombo Plan and Technical Cooperation for the Indian Institutes of Technology" ; Yoshida Osamu, "The World Bank's India Consortium and the Beginning of the Development" ; Yamaguchi Ikuto, "The Development and Activities of ECAFE, 1947-1965" .
- ⑩菅英輝「対イラク経済制裁とイラクの子どもたち—知られざる『大量破壊兵器』」、国際政治学会 部会 14「国際関係と子どもの安全保障」、神戸国際会議場、2009年11月8日。

⑪The Transformation of the International Order of Asia in the 1950s and 1960s, organized by Shoichi Watanabe and Shigeru Akita, The XV World Economic History Congress, Utrecht, the Netherlands, August 6, 2009

Watanabe Shoichi 'the British Foreign Ministers Conference on 1950 and the Formation of the Colombo Plan' ; Yokoi Katsuhiko 'Role of the Technical Cooperation under the Colombo Plan in the Establishment of the Indian Institute of Technology (IIT) in Delhi' ; Kan Hideki 'The US and the Colombo Plan-A Search for Regional Cooperation in Asia in the 1950s' ; Yamaguchi Ikuto, 'The Development and Activities of ECAFE, 1947-1965' ; Akita Shigeru 'the Transformation of the Colombo Plan and the sterling Area in the late 1950s and the early 1960s' ; Kibata Yoichi, Changing International Order in Asia and the Anglo-Japanese Relations: From the Mid-1950s to the Early 1960s' ; Yoshida Osamu 'The Beginning of Development Assistance: The World Bank's India Consortium and Its Making'

⑫秋田茂「1930-1950年代アジア国際経済秩序とイギリス帝国・スターリング圏」現代「中国」の社会変容と東アジアの新環境・第三回国際シンポジウム：東アジア地域研究、大阪大学中国文化4フォーラム、南開大学歴史学院、東華大学歴史学系、大阪大学、2009年8月。

⑬Yoichi Kibata, "World/Global History from a Japanese Perspective" The First Conference of the Asian Association of World History, . 2009年5月29日、大阪大学中之島センター（大阪）

⑭1950-1960 亞州國際秩序學術研討会「the transformation of the international order of Asia in 1950s and 1960s, organized by Shoichi Watanabe and Academia Historica, Taipei, Taiwan, R. O. C., Dec. 26-27, 2008, Poceedings: Watanabe Shoichi (pp. 5-32) , Yamaguchi Ikuto (pp. 33-52) ; Kan Hideki (pp. 53-70) ; Kibata Yoichi (pp. 71-86) ; Yoshida Osamu (pp. 87-96) ; Yokoi Katsuhiko (pp. 113-134) ; Akita Shigeu (pp. 135-160) .

⑮Akita Shigeru, "Creation of a New Global History and British Imperial History: Japanese Perspectives" Yongkuk Yonku (The Korean Journal of British Studies, (Yongkuksa Hakhoe (The Korean

Society of British History)), Vol. 20, pp. 325-348, Dec. 2008.

- ⑩秋田茂 「コロンボ・プランからアジア太平洋協力へ——地域統合と日本の「開かれた地域主義」構想」東華大學歴史学系(編)『国際学術討論会 会議手冊&論文集』(第2回現代中国社会変動與東亞新格局), 133-140頁, 2008年8月.
- ⑪Akita Shigeru, "The British Empire and Industrialization-based International Order of Asia in the First Half of the Twentieth Century", Second European Congress of World and Global History: World and Global History, European Network in Universal and Global History (ENUGH), University of Leipzig, June 2008.
- [図書] (計 31 件)
- ①木畑洋一編著『岩波講座 東アジア近現代史 7 アジア諸戦争の時代 1945-1960年』岩波書店、2011年2月(木畑洋一「東アジア国際関係の転機としてのバンドン会議—重層的・多面的関係へ」274-296頁).
- ②木畑洋一他編『岩波講座東アジア近現代史 7 アジア諸戦争の時代 1945-1960年』岩波書店、2011年(木畑洋一「通史 アジア諸戦争の時代 1945-1960年」1-39頁).
- ③木畑洋一・後藤春美編『帝国の長い影—20世紀国際秩序の変容』ミネルヴァ書房、2010年(木畑洋一「覇権交代の陰で—ディエゴガルシアと英米関係」249-269頁).
- ④山本武彦編著『国際関係論のニューフロンティア』成文堂、2010年(都丸潤子「第9章人の国際移動とトランスナショナルな空間の形成」、244-273頁).
- ⑤Akita Shigeru, Antony Best et al. (共著), *The International History of East Asia, 1900-1968: Trade, ideology and the quest for order*, Routledge-Curzon, 2010, 2. (Shigeru Akita, "The East Asian international economic order in the 1950s" pp. 153-167).
- ⑥Akita Shigeru, Nicholas J. White et al. (共編著), *The International Order of Asia in the 1930s and 1950s*, Ashgate Publishing Ltd, 2010. (Akita Shigeru "Introduction: The International Order of Asia in the 1930s and 1950s: Context, Hypotheses and Scope" with Nicholas White, pp. 1-13); (Shigeru Akita, "British Economic Interests and the International Order of Asia in the 1930s" pp. 17-48)
- ⑦Watanabe Shoichi ed., *The Formation of the New International Order in Asia and the International-Aid Plan* (the Interim Report by Grant-in-Aid for Scientific

Research (A) (No.19202018) in 2007-2008, March 2009, 319pp.

- Watanabe Shoichi, "Introduction" pp. 1-10; "the Origins of the Colombo Plan," pp. 11-40.
- Yokoi Katshuhiko, "International Aid for India in the 1950s and 1960s," pp. 57-76.
- Yoshida Osamu, "the Beginnign of Development Assitance," pp. 77-86.
- Akita Shigeru, "Transformation of the Colombo Plan and the Sterling Area in the late 1950s and the early 1960s," pp. 125-150.
- Tomaru Junko, "the Colombo Plan and British Publicity Policies towards South-East Asia, 1950-65," (pp. 169-182)
- Kibata Yoichi, "Changing International Order in Asia and the Anglo-Japanese Relations," pp. 183-196.
- Kawanishi Kosuke, "Establishment of the Asia Kyokai and the Colombo Plan, 1949-54," pp. 197-210.
- Yamaguchi Ikuto, "the Development and Activities of ECAFE, 1947-65," pp. 233-258.
- Kan Hideki, "the US Cold War Policy and the Colombo Plan," pp. 273-288.
- ⑧北川勝彦編著 イギリス帝国と 20 世紀第 4 卷『脱植民地化とイギリス帝国』ミネルヴァ書房、2009年(菅英輝「アメリカ『帝国』の形成と脱植民地化運動への対応」111-152頁).
- ⑨北川勝彦編著 イギリス帝国と 20 世紀第 4 卷『脱植民地化とイギリス帝国』ミネルヴァ書房、2009年(都丸潤子「バンドン会議と日英関係」、271-309頁).
- ⑩Iokibe Makoto, Caroline Rose, Tomaru Junko, and John Weste, eds., *Japanese Diplomacy in the 1950s*, Routledge, 2008, (Tomaru Junko, 'Introduction' with Caroline Rose, pp. 1-6; Tomaru Junko, 'Japan in British Regional Policy towards South-East Asia, 1945-1960' pp. 55-75.
- ⑪佐藤信一・太田正登編『グローバル時代の国際政治史』, ミネルヴァ書房、2008年、吉田修「アジアの復興」123-166頁.
- ⑫木畑洋一『イギリス帝国と帝国主義——比較と関係の視座』有志舎、2008年
- ⑬秋田茂, 桃木至朗他(共編著)『歴史学のフロンティア—地域から問い直す国民国家史観』大阪大学出版会、2008年(秋田茂「序章」9-32頁桃木と共同執筆); (秋田茂「イギリス帝国とヘゲモニー」112-135頁)
- ⑭菅英輝編著『冷戦史の再検討—変容する秩序と冷戦の終焉』法政大学出版局、平成 22

年（菅英輝「変容する秩序と冷戦の終焉」1～35頁、「米中和解と日米関係—ニクソン政権の東アジア秩序再編イニシアティブ」301～332頁）

⑮菅英輝『アメリカの世界戦略—戦争はどう利用されるのか』中公新書、2008年、1-238頁。

⑯秋田茂、水島司他（共著）『グローバル・ヒストリーの挑戦』山川出版社、2008年、（秋田茂「アジア国際秩序とイギリス帝国、ヘゲモニー」102-113頁）。

⑰西村成雄・田中仁編『中華民国の制度変容と国際秩序：現代中国文化研究 上』汲古書院、2008年（第2部第1章：秋田茂1930-50年代の東アジア国際経済秩序）、193-208頁）

⑱ Shigeru Akita et al（共著）Patrick Manning (ed.), *Global Practice in World History: Advances Worldwide*, Princeton, Markus Wiener Publishers, 2008 (Shigeru Akita, 'Creating Global History from Asian Perspectives' pp. 57-68)

⑲木畑洋一編『イギリス帝国と20世紀 第5巻 現代世界とイギリス帝国』ミネルヴァ書房、2007年（木畑洋一「二つの島国帝国」321-354頁）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡辺 昭一 (WATANABE SHOICHI)

東北学院大学・文学部・教授

研究者番号：70182920

(2) 連携研究者

木畑 洋一 (KIBATA YOICHI)

成城大学・法学部・教授

研究者番号：10012501

秋田 茂 (AKITA SHIGERU)

大阪大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：10175789

横井 勝彦 (YOKOI KATSUHIKO)

明治大学・商学部・教授

研究者番号：10201849

菅 英輝 (KAN HIDEKI)

西南女学院大学・人文学部・教授

研究者番号：60047727

吉田 修 (YOSHIDA OSAMU)

広島大学・大学院社会科学部研究科・教授

研究者番号：60231693

都丸 潤子 (TOMARU JYUNKO)

早稲田大学・大学院政治経済学術院・教授

研究者番号：00252750

波多野 澄雄 (HATANO SUMIO)

筑波大学・大学院人文社会科学部研究科・

教授

研究者番号：00208521

河西 晃祐 (KAWANISI KOUSUKE)

東北学院大学・文学部・准教授

研究者番号：10405889

山口 育人 (YAMAGUCHI IKUTO)

帝京大学短期大学・現代ビジネス学科・
講師

研究者番号：20378491